

我が国の子どもたちの学力の現状

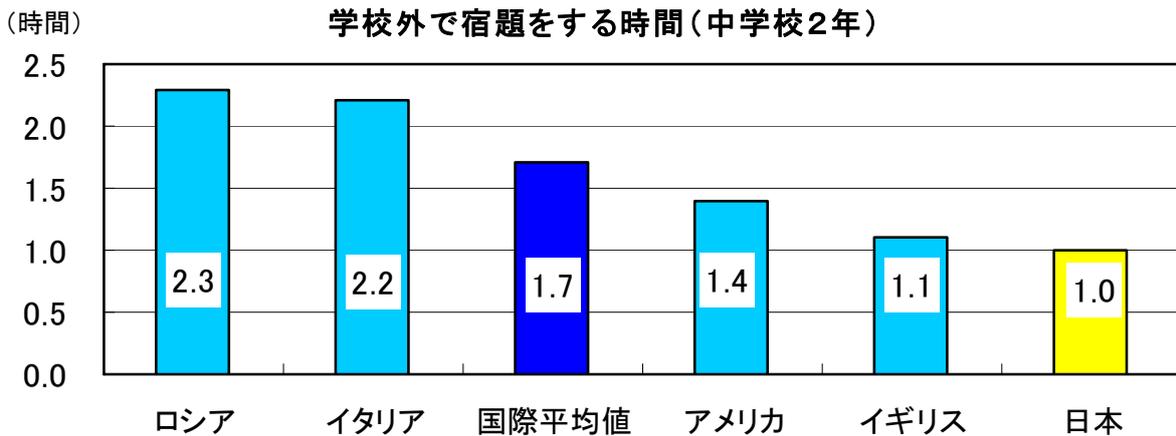
○学力に低下傾向

読解力が低下【PISA2003】

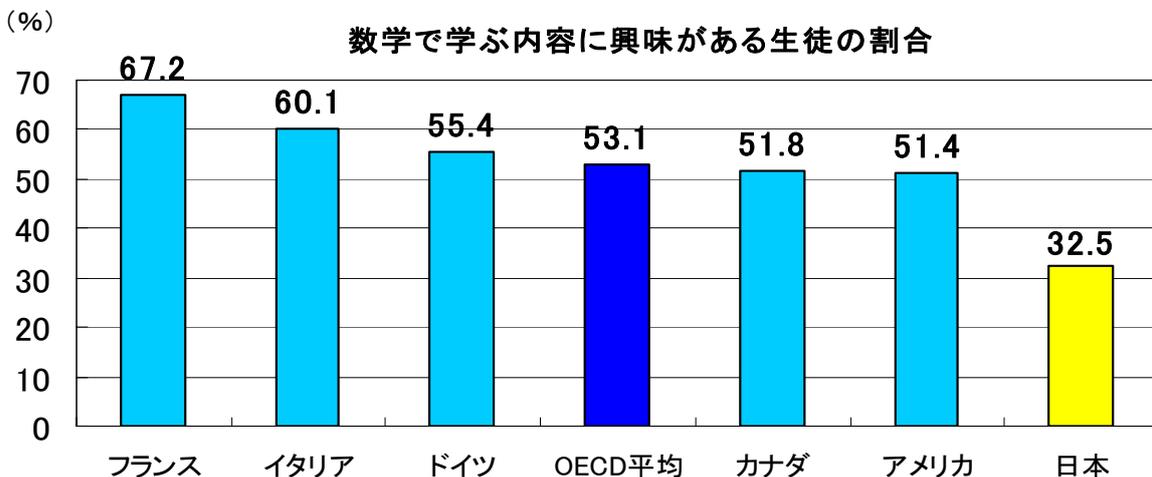
OECD平均と同程度(8位→14位)

○学習意欲や学習習慣が必ずしも十分でない

子どもたちの自宅での勉強時間が一番短い
【TIMSS2003】



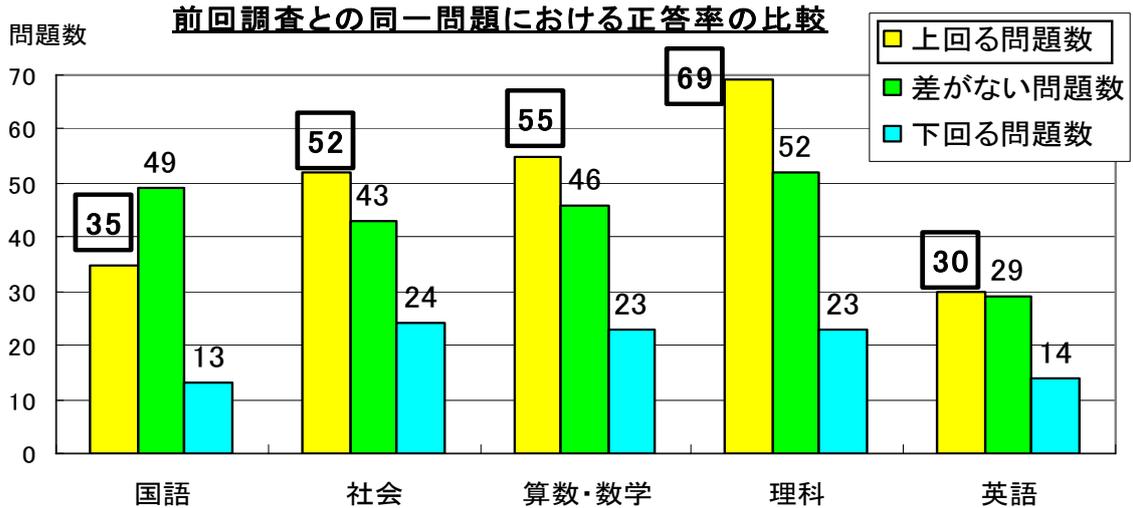
学習への興味・関心が低い【PISA2003】



○一定の改善(前回を上回る)

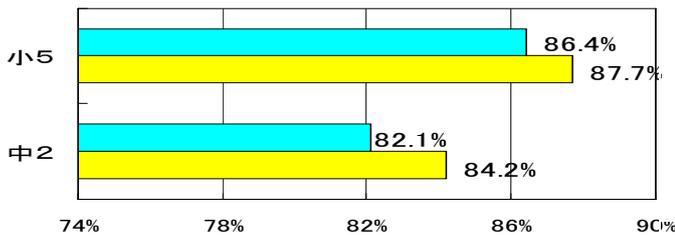
【平成15年度教育課程実施状況調査】

基礎知識の定着

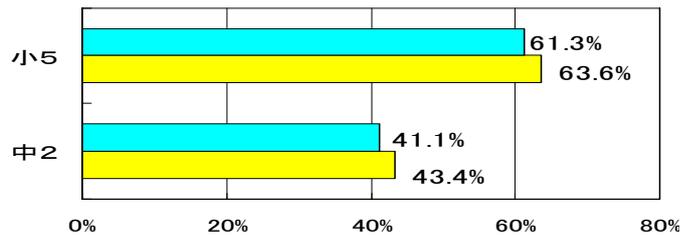


学習意欲の向上

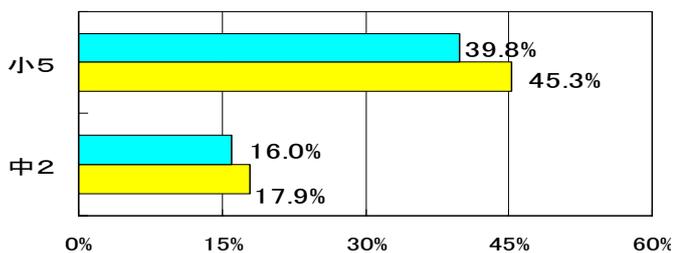
「勉強は大切だ」
 そう思う、どちらかといえばそう思う



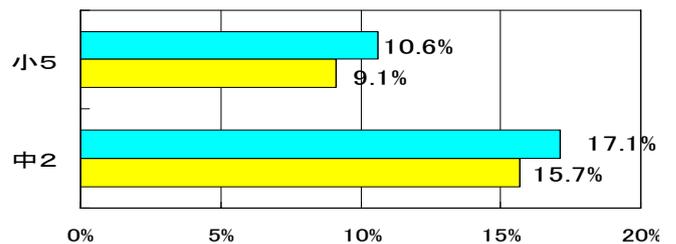
「授業が分かる」
 よく分かる、だいたい分かる



「勉強が好きだ」
 そう思う、どちらかといえばそう思う



平日における学校の授業以外の
 学習時間
 全く、ほとんど勉強しない

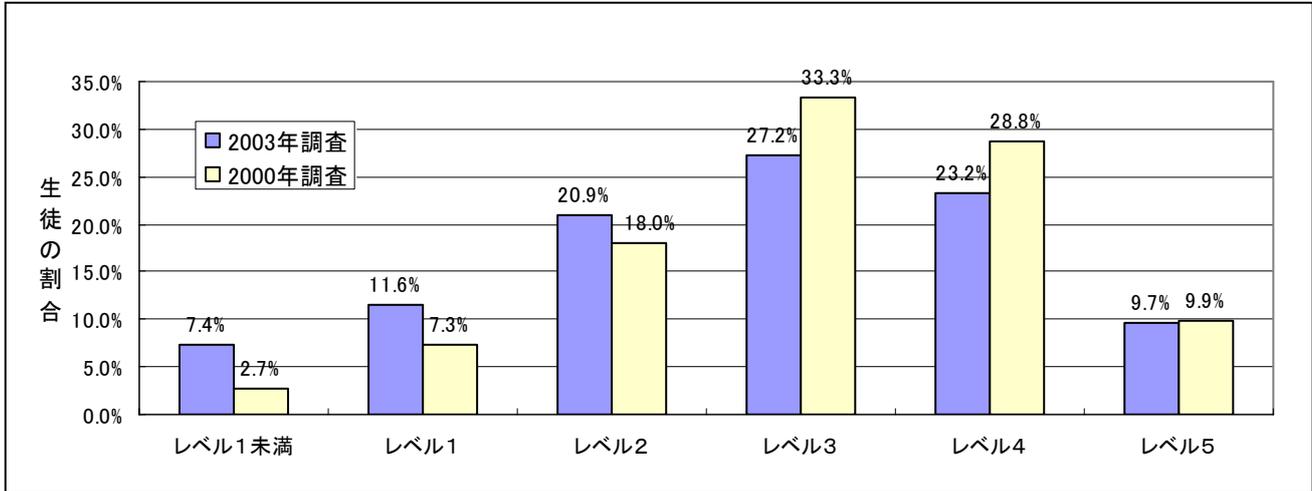


PISA調査とTIMSS調査の概要

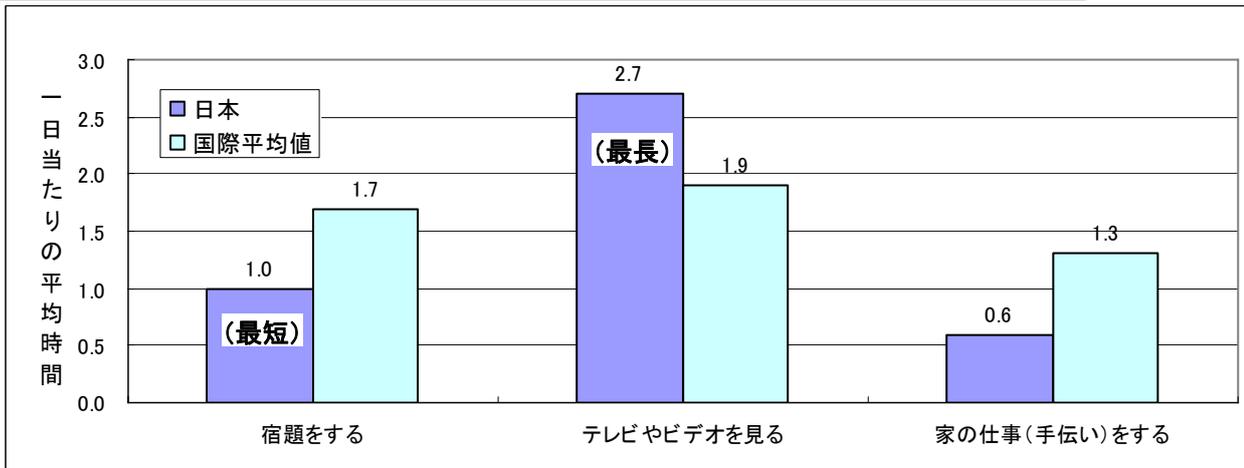
	PISA2003 生徒の学習到達度調査	TIMSS2003 国際数学・理科教育動向調査
実施主体	経済協力開発機構(OECD) (1960年設立の政府間機関、30カ国より構成)	国際教育到達度評価学会(IEA) (1960年設立の国際学術研究団体、 60カ国/地域の教育研究機関より構成)
参加国	41カ国/地域(OECD加盟30カ国、非加盟11カ国/地域)	小学校4年生:25カ国/地域 中学校2年生:46カ国/地域
調査実施時期	2003年7月(前回は2000年)	2003年2月 (前回は小学校:1995年、中学校:1999年)
調査対象	高校1年生(約4,700人)	小学校4年生(約4,500人) 中学校2年生(約4,900人)
調査項目	読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、 問題解決能力(2003年調査から)	算数・数学、理科
調査内容	知識や技能等を実生活の様々な場面で直面する課題 にどの程度活用できるかを評価(記述式が中心)	学校のカリキュラムで学んだ知識や技能等がどの程度 習得されているかを評価(選択肢が中心)

国際的な学力調査における我が国の児童生徒の課題

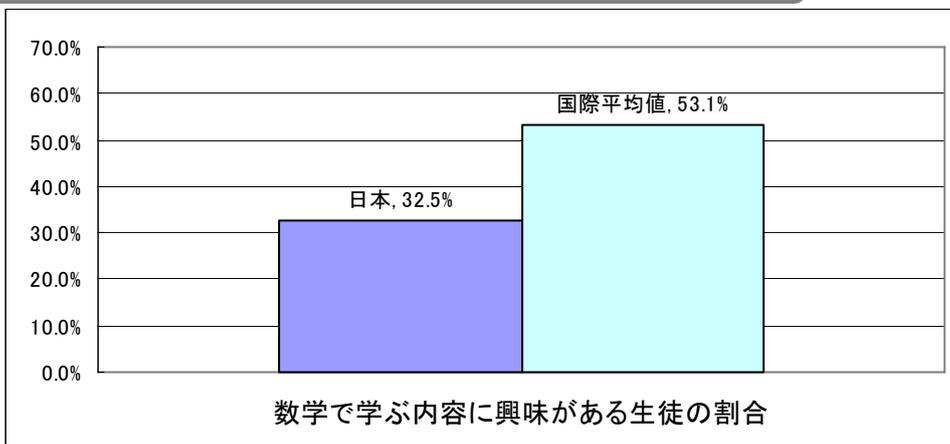
PISA調査(読解力)の習熟度レベル別の生徒の割合



学校外での一日の時間の過ごし方(TIMSS2003・中学校2年)



学習への興味・関心(PISA2003・質問紙調査)



生徒の学習到達度調査（PISA2003） （経済協力開発機構（OECD）実施）

- 我が国の学力は、全体として国際的に見て上位。（高1を対象）
- ただし、読解力など低下傾向にあり、世界トップレベルとは言えない状況。
- 授業を受ける姿勢は良いが、学ぶ意欲や学習習慣に課題。

1. 平均得点の国際比較（41カ国・地域参加）

数学的活用能力 （前回1位）	1位グループ／香港、フィンランド、韓国、オランダ、リヒテンシュタイン、 <u>日本（6位）</u>
読解力 （前回8位）	OECD平均と同程度（14位）
科学的活用能力 （前回2位）	1位グループ／フィンランド、 <u>日本（2位）</u> 、香港、韓国
問題解決能力 （今回から実施）	1位グループ／韓国、香港、フィンランド、 <u>日本（4位）</u>

2. アンケート調査の結果

○学ぶ意欲

	数学で学ぶ内容に興味がある生徒
日本	32.5%
OECD平均	53.1%

○生徒が授業を受ける姿勢

	先生は生徒が静まるまで長い時間待つ			
	いつもそうだ	たいていそうだ	たまにある	ほとんどない
日本	3.9%	9.6%	34.8%	50.4%
OECD平均	12.0%	19.2%	41.5%	24.8%

○学校以外の勉強時間

日本	6.5時間／週
OECD平均	8.9時間／週

国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2003） （国際教育到達度評価学会（IEA）実施）

- 我が国の児童生徒の学力は、国際的に見て上位。ただし、小学校理科、中学校数学は前回より得点が低下。（小4、中2を対象）
- 学ぶ意欲や学習習慣に課題。
- テレビやビデオを見る時間が長く、家の手伝いをする時間が短い。

（1）我が国の成績

①算数・数学の成績

	小学校	中学校
昭和39年（第1回）	実施していない	2位 / 12国
昭和56年（第2回）	実施していない	1位 / 20国
平成7年（第3回）	3位 / 26国	3位 / 41国
平成11年（第3回追調査）	実施していない	5位 / 38国
平成15年（第4回）	3位 / 25国	5位 / 46国

②理科の成績

	小学校	中学校
昭和45年（第1回）	1位 / 16国	1位 / 18国
昭和58年（第2回）	1位 / 19国	2位 / 26国
平成7年（第3回）	2位 / 26国	3位 / 41国
平成11年（第3回追調査）	実施していない	4位 / 38国
平成15年（第4回）	3位 / 25国	6位 / 46国

（2）数学・理科に対する意識

	勉強は楽しいと思う		得意な教科である	
	数学	理科	数学	理科
中学校	39%	59%	39%	49%
国際平均	65%	77%	54%	54%

（3）学校外での時間の過ごし方

	宿題をする	テレビやビデオを見る	家の手伝いをする
中学校	1.0時間 / 日	2.7時間 / 日	0.6時間 / 日
国際平均	1.7時間 / 日	1.9時間 / 日	1.3時間 / 日

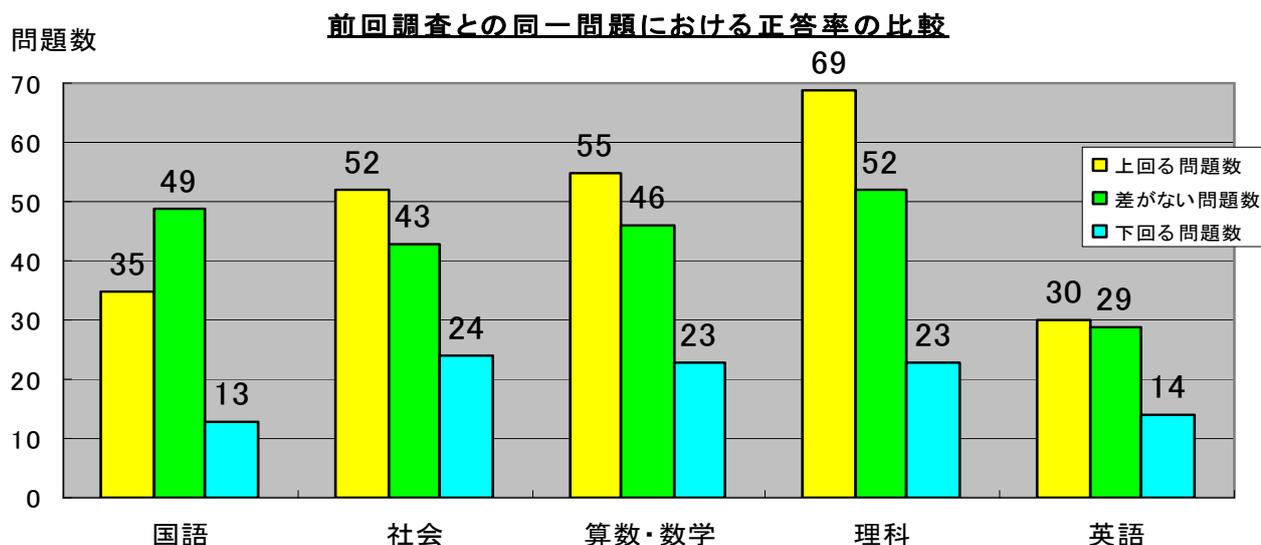
平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査 分析結果のポイント

【調査概要】

- 学習指導要領（H10告示）の目標・内容に照らした児童生徒の学習状況の把握のためにH16.1～2月(今回はH14.1～2月)に実施。
- 小学5年生から中学3年生の各学年を対象に国語、社会、算数・数学、理科、英語（中学のみ）について実施。（約45万人の児童生徒が対象）

【ペーパーテストの概要 その1】

- 前回調査との同一問題に関して、いわゆる正答率の経年変化を比較してみると、
 - 「有意に上回る」問題数は全体の約43%
 - 「有意に差がない」問題数は全体の約39%
 - 「有意に下回る」問題数は全体の約17%



【ペーパーテストの概要 その2】

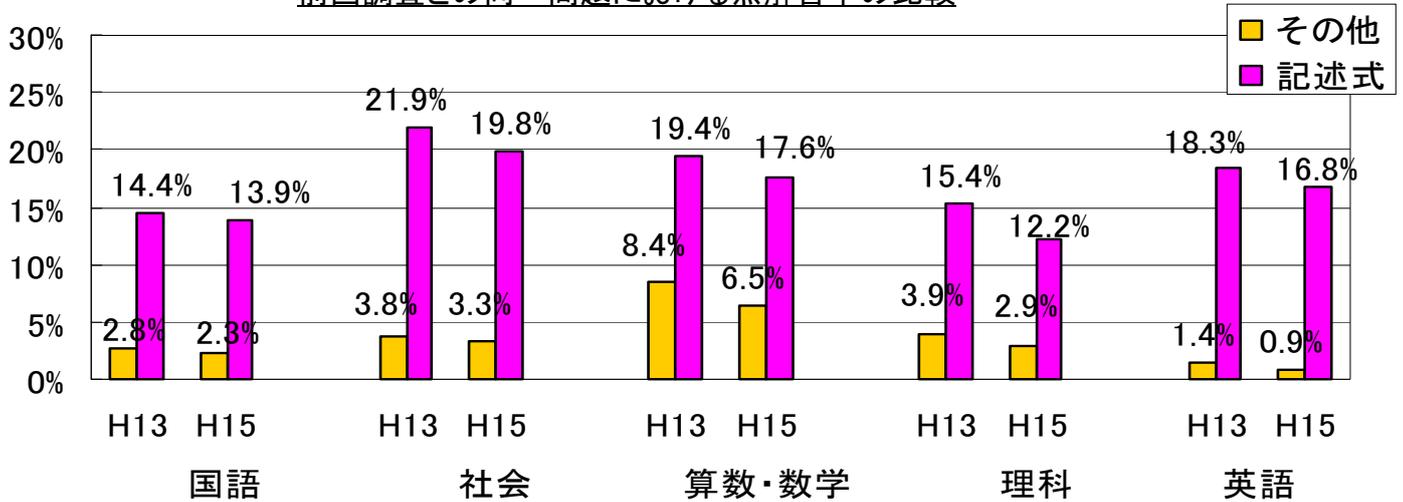
- さらに、前回調査との同一問題に関して、「記述式」の問題と「その他」の問題に分類して、「正答率(平均)」と「無解答率(平均)」の経年変化を比較してみると、大半の教科において、

「正答率」 → 上回っている

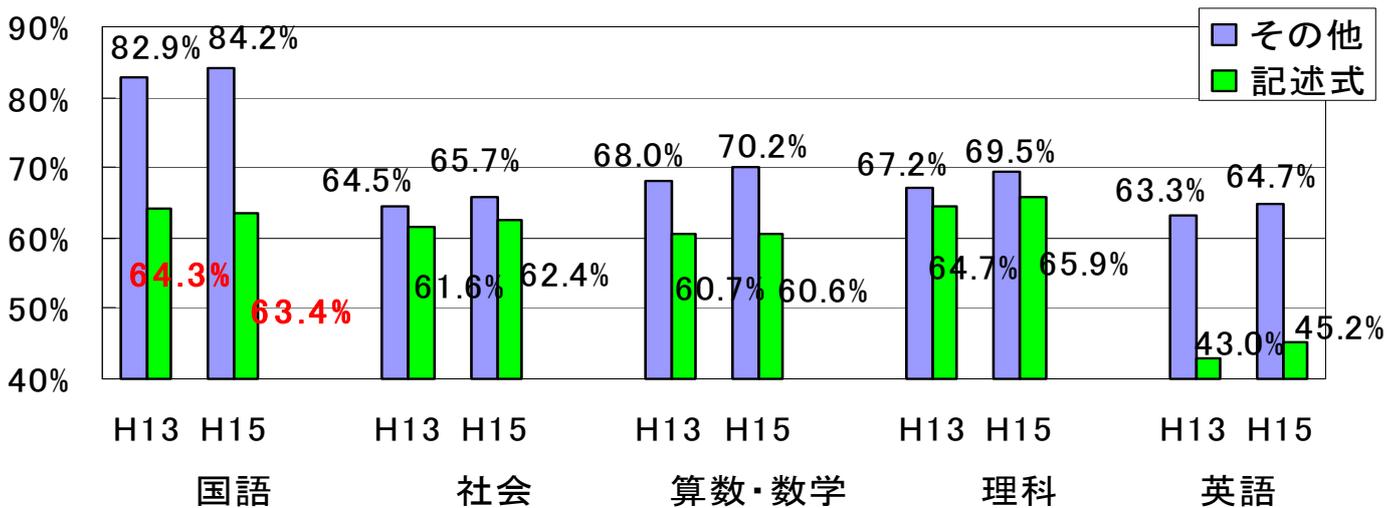
「無解答率」 → 下回っている

- しかし、「記述式」の国語 → 正答率が下回っている

前回調査との同一問題における無解答率の比較



前回調査との同一問題における正答率の比較



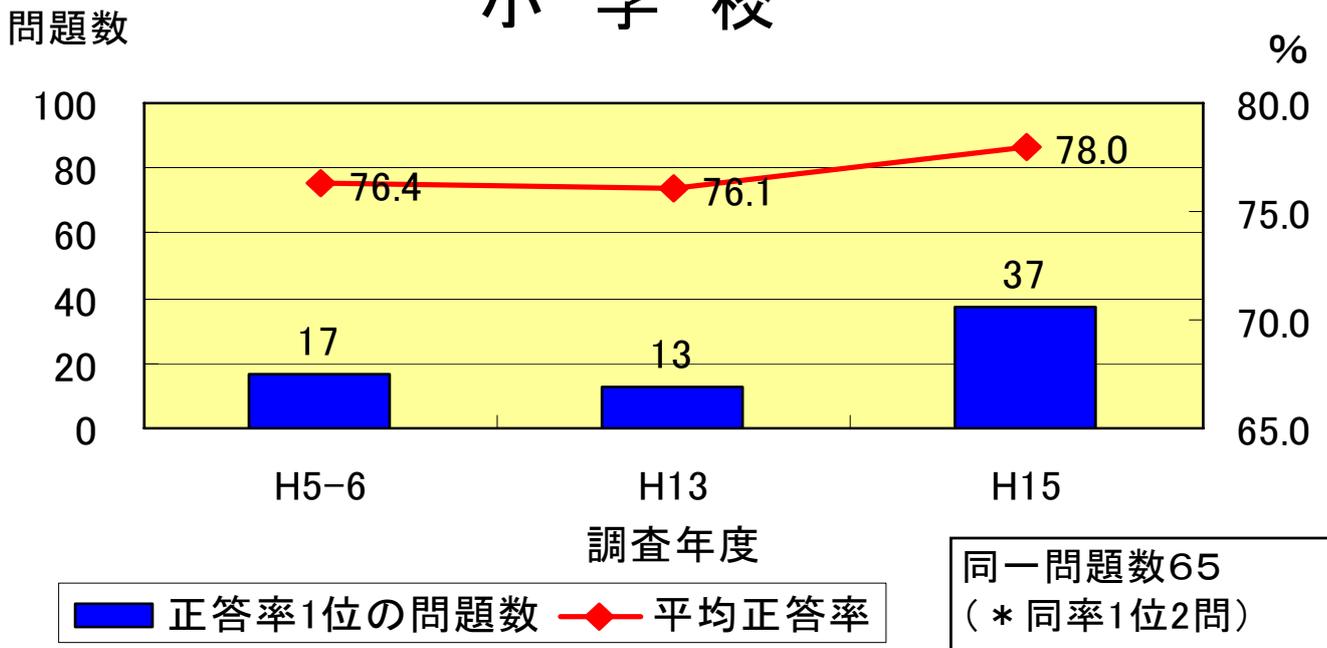
各教科における同一問題数

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
記述式	23	23	23	28	18
その他	74	96	101	116	55

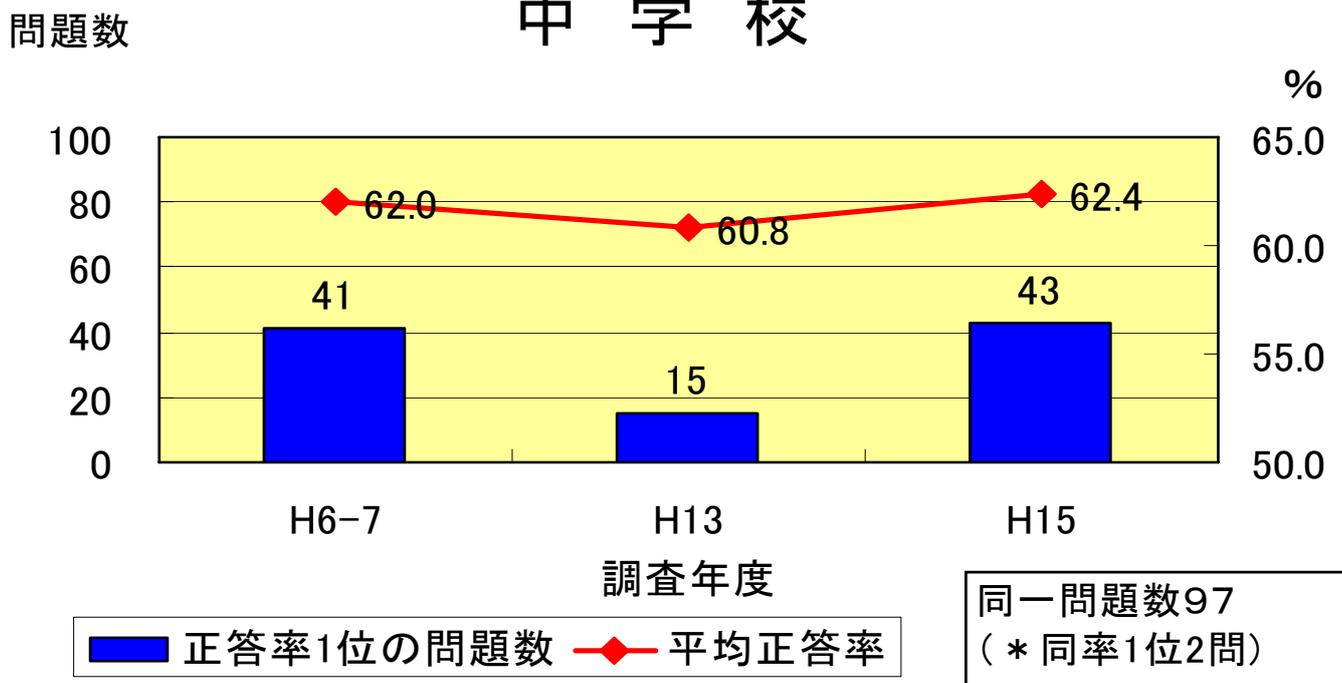
【ペーパーテストの概要 その3】

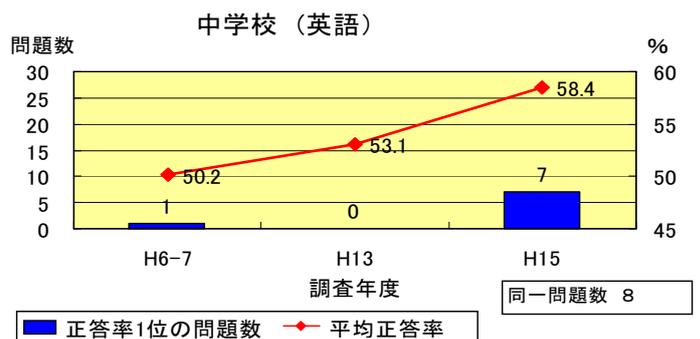
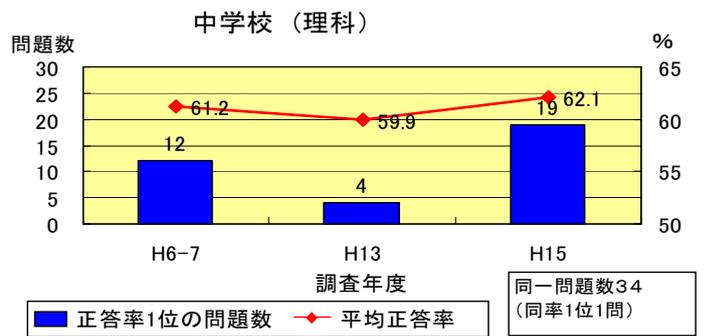
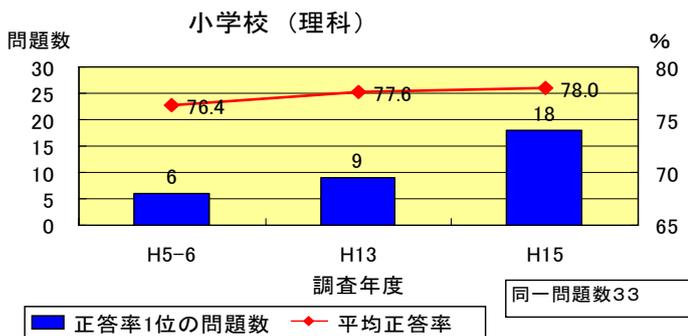
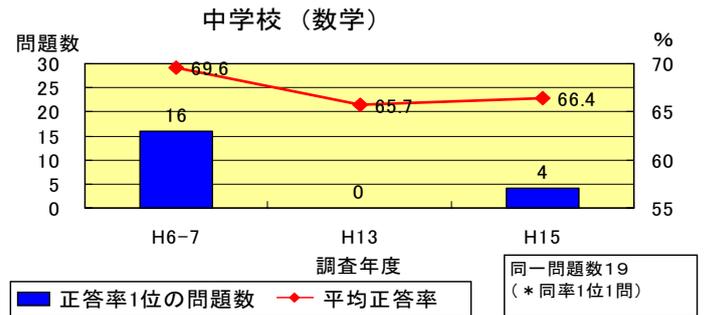
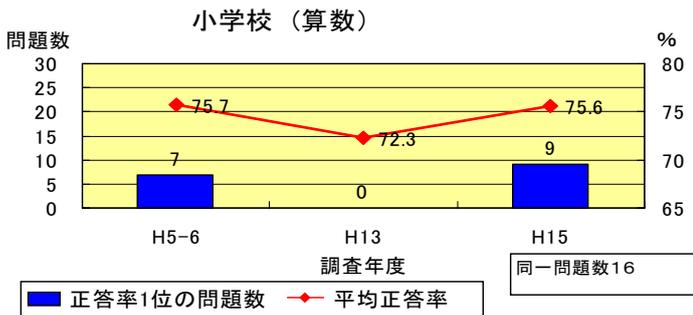
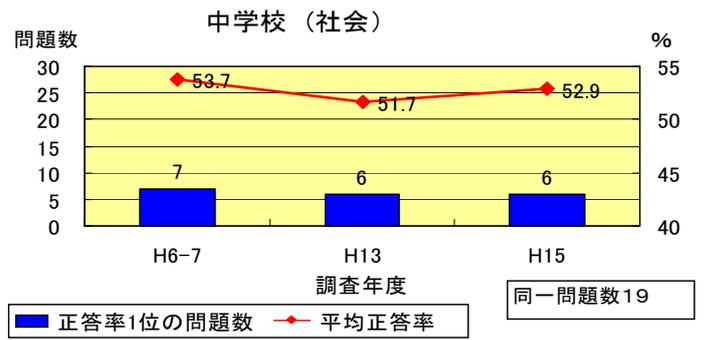
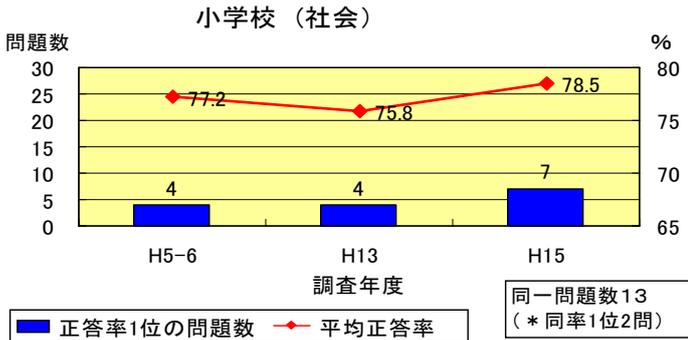
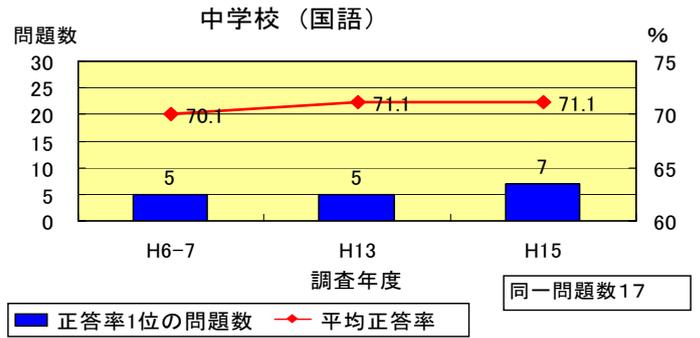
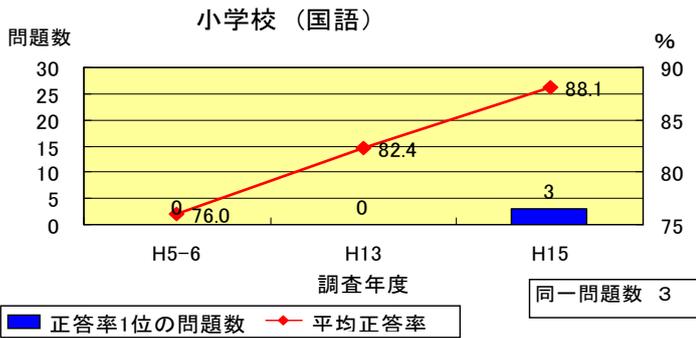
- 前々回調査までの3回の調査の同一問題について、前回と比較すると上回る傾向だが、前々回と比較すると一部で下回っている

小 学 校



中 学 校

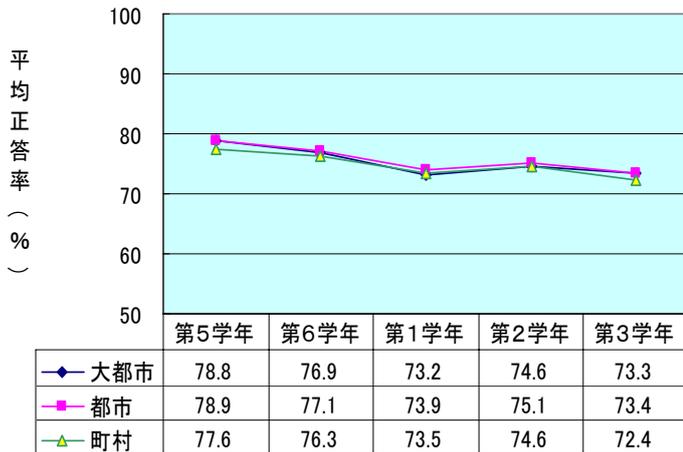




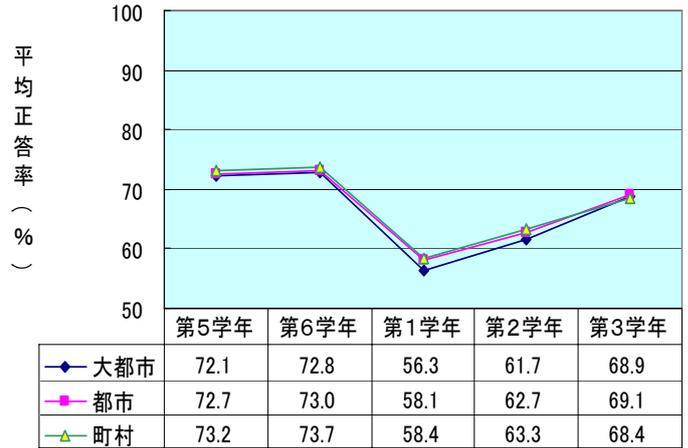
【ペーパーテストの概要 その4】

- 公立学校の大都市（政令市、東京23区）、都市（政令市以外の市）、町村における児童生徒の平均正答率を比較すると、ほとんど差がない

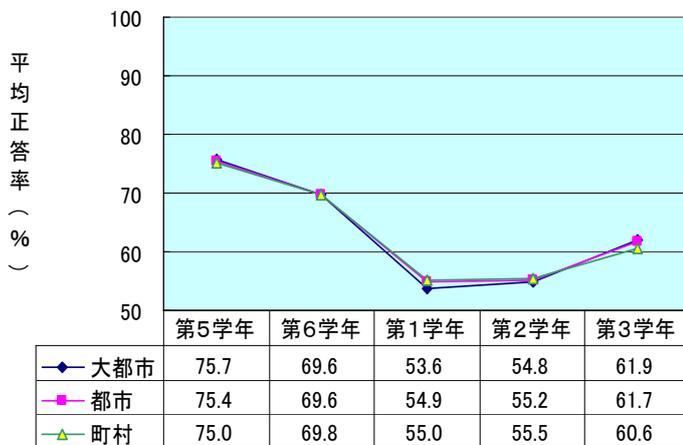
国語の平均正答率



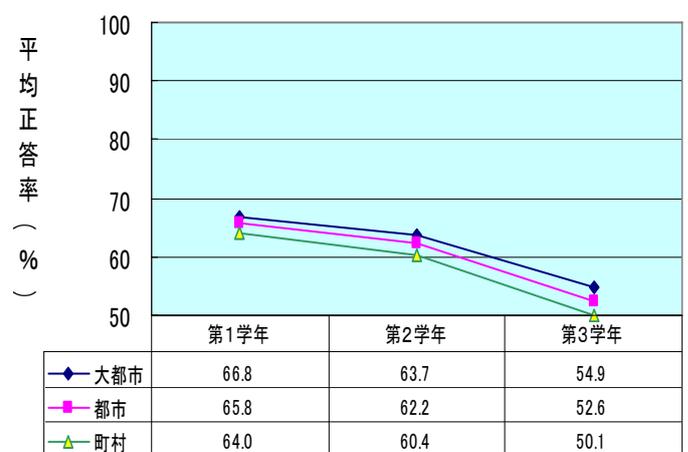
理科の平均正答率



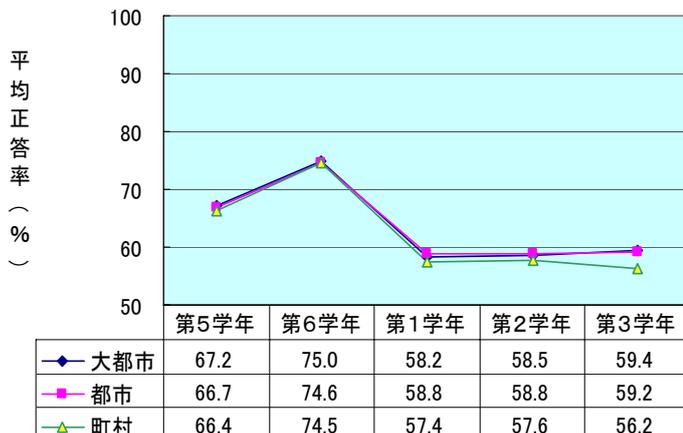
社会の平均正答率



英語の平均正答率



算数・数学の平均正答率



【質問紙調査の概要】

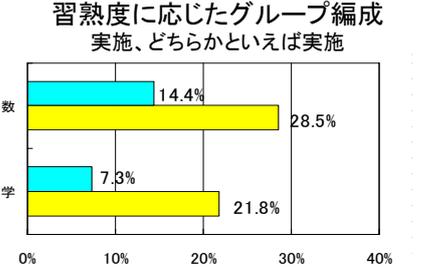
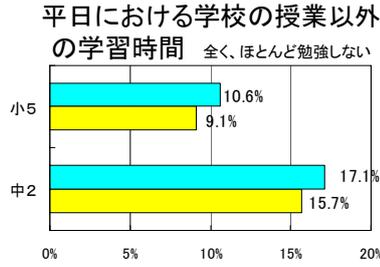
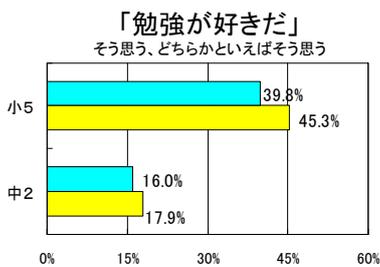
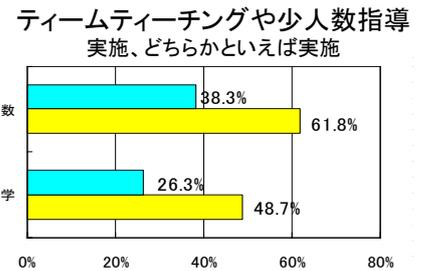
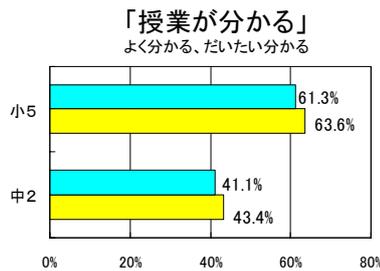
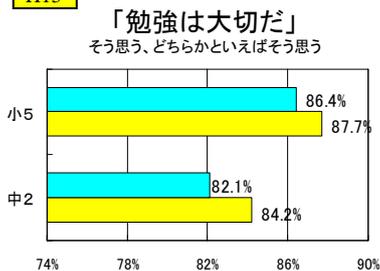
- **勉強が大切だ、好きだと答えた児童生徒の割合が増加傾向**
- **「授業がわかる」と答えた児童生徒の割合が増加傾向**
- **「学校の授業以外でほとんど勉強しない」児童生徒の割合が減少傾向**
- **「チームティーチングや少人数指導」や「習熟の程度に応じた指導」を実施している教師の割合が増加傾向**

H13

《児童生徒 質問紙調査》

H15

《教師 質問紙調査》



- **勉強が大切だ、好きだと答えた児童生徒についてはペーパーテストの得点が高い傾向**
- **基本的な生活習慣が身についているとうかがえる児童生徒についてはペーパーテストの得点が高い傾向**

